

現場作業における熱中症 発生時の対応フローチャート

① 症状の確認



- ☐ 意識があるか？
- ☐ 顔が赤く、汗が出ていない／異常なほど汗をかいている
- ☐ めまい・吐き気・頭痛・けいれん・倦怠感・虚脱感がある

② 緊急度の判断



意識あり・
軽症の可能性あり

意識がない、
返答が不明瞭、けいれん、
体温が高い



【緊急事態】
救急車を呼ぶ（119）

③ 応急処置と改善確認



症状が改善した

作業復帰は医師の判断が
あれば可能／無理は禁物

- ☒ 涼しい場所（日陰・エアコンの効いた場所）に移動
- ☒ 作業服やヘルメットを外し、身体を冷やす
- ☒ 水分と塩分を補給（スポーツドリンク・経口補水液など）

※ 意識がはっきりしていない場合は無理に飲ませない

④ 報告・記録・再発防止



- ☐ 上司・安全管理者へ報告
- ☐ 体調記録と発生状況を記録
- ☐ 熱中症対策の再確認（休憩・水分補給など）

熱中症発生時の対策フロー（屋外・社外での作業向け）

※屋外かつ高温・高湿の作業環境では、熱中症の発生リスクが非常に高いため、迅速かつ的確な対応が重要です。

1. 発見・通報

- ☐ 作業者が異常を訴える、または倒れているのを発見
- ☐ 意識の有無を確認・**現地責任者へも連絡**



2. 初期評価と応急処置

- ☐ ☒ **【意識がある場合】**
- ☐ 直ちに日陰・涼しい場所に移動
- ☐ 防護具・ヘルメット等を外す
- ☐ **冷却措置を開始**
- ☐ 氷嚢・冷却パックで首、脇、足の付け根を冷やす
- ☐ 風通しを良くし、うちわ・扇風機等で風を送る
- ☐ **水分・塩分の補給**
- ☐ 経口補水液、スポーツドリンクなどを少しずつ摂取
- ☐ 現地責任者・上司・安全管理者にすぐ連絡



△【意識がない／応答が不明瞭な場合】

- ☐ 直ちに救急車を要請（119番通報）
- ☐ 安静保持と冷却を継続
- ☐ 呼吸・脈拍を確認（心肺停止時はAED＋心肺蘇生）
- ☐ 搬送時は記録（発見時刻・症状・処置内容）を持たせる
- ☐ 上司・安全管理者にすぐ連絡



3. 報告・記録

- ☐ 安全管理責任者へ報告

発生状況の記録

- ☐ 気温・湿度・WBGT値、作業内容、本人の状態、対応内容など
- ☐ 事故報告書作成（必要に応じて労基署・保険対応）



4. 再発防止策の検討と実施

- ☐ 作業環境の見直し（換気、送風、WBGT測定）
- ☐ 作業時間・休憩時間の調整
- ☐ 飲水・塩分補給ルール徹底
- ☐ 作業前の健康チェック体制の強化
- ☐ 熱中症予防教育の実施

☑ 熱中症対策の事前準備（平時）

- ☐ WBGT測定器の常設
- ☐ 給水ポイントの整備
- ☐ 休憩所の冷房・扇風機設置
- ☐ 作業者の健康チェック表作成
- ☐ 全従業員への熱中症対策教育の定期実施

